

令和5年度 かながわティーチャーズカレッジ

COLLEGE NEWS

カレッジニュース



令和5年8月20日 発行
神奈川県立総合教育センター
かながわティーチャーズカレッジ事務局
(教育人材育成課キャリア開発班)

令和5年8月6日、「かながわティーチャーズカレッジ」を開講しました。教員を目指す皆さんを応援するため、平成20年に始まったカレッジも、今年で16年目を迎えます。今年度はオープンコース75名、チャレンジコース176名（小学校117名、特別支援学校16名、中学校英語又は高等学校英語15名、中学校国語又は高等学校国語28名）、合わせて251名の受講者が、約8か月間教職を目指す仲間とともに切磋琢磨しながら、教員の仕事についての理解を深め、神奈川県の特徴を学んでいきます。

開講式

開講式では、神奈川県教育委員会 花田教育長より、受講者に向けて熱い期待を込めた激励の言葉が送られました。

教育長のメッセージより



この数年は、コロナ禍の中、子どもたちの安全・安心と、学びの保障の両立を支えてきました。その結果、オンラインの活用など、魅力ある、新たな学びの姿が、展開されつつあります。

一方で、「困難を抱える子どもたちへの支援」や「教員の働き方改革」など、様々な課題への対応が求められています。県教育委員会では、困難を抱えつつもSOSを出せない子どもたちを、いち早く把握し、必要な支援に繋げるため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置を大幅に拡充するなど、学校の相談・支援体制の強化に取り組んでいます。

本日から、このティーチャーズカレッジを受講される皆さんも、教職に何かしらの不安を感じながら、それでも、教職を志したいという、強い使命感を抱いているものと推察します。

皆さんには、将来、ぜひ神奈川の教員となっていただき、より良い学校教育の実現を通して、より良い未来、より良い社会をつくっていくという、教育の大きな使命を果たしていただきたい。そして、教員として、大きな「やりがい」を感じる日々を送っていただきたい、と強く願っています。

そのためにも、本日から始まる、この「かながわティーチャーズカレッジ」が皆さんの志（こころざし）の実現に向けた、価値ある「学び」となることを心から願い、私からの挨拶とします。皆さん、どうぞ頑張ってください。

第1回かながわ教育学講座「子どもに身に付けさせたい力」

第1回のテーマ「子どもに身に付けさせたい力」について、カレッジ長でもある宮村所長より講話がありました。

教育とは、社会がどのように変わろうとも、人間にとって普遍的で変わらぬ営みである一方、学校が担う役割や機能は社会の変化に応じて変わっていきます。日本の目指すべき姿として、「Society 5.0」が提唱される中、学校教育にはこうした社会の変化に即した変革が求められています。

では、本当に全ての子どもたちが学校で安心・安全に過ごすことができているのでしょうか。神奈川県では、支援教育の理念を学校教育の根幹に据えながら、インクルーシブ教育の推進に取り組んでいます。支援教育を進めるうえでは、子どもの目線に立って一人ひとりに「寄り添う」こと、子どもたちの言動や表情の要因・背景に思いをはせることが大切です。全ての子どもたちが、安心・安全に

「ともに学ぶ」ためには、「指導」や「支援」といった一方向のものから、「対話」や「伴走」といった、学び合う、双方向のものがより大切になってくるのではないのでしょうか。



後半のグループ活動では、「学校で子どもたちにどのような力を育みたいか」について考えまし



た。講話でも確認した「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」（学習指導要領の前文）を基に「子どもに身に付けさせたい力」について具体的に考え、「子ども像」を共有しました。

名前:グッタ

生年月日:平成14年12月1日生まれ(性別なし)

出身:神奈川県藤沢市

チャームポイント:きらきら輝く瞳

特徴:いつも前向き。みんなを励ましたり、力づけたりしてくれる。

総合教育センターを利用する教職員、児童・生徒、及び県民にとって親しみを
持てるキャラクターとして、活躍し続けます！



受講者のワークシートより

《オープンコース》

今日の講座では、「子どもに身に付けさせたい力」というテーマでグループ員と議論して発表を行ったが、自分にはない考えが発見できたことが大きな学びであった。自分にはない「社会との大きなつながり」や「基盤となる力」の考えを学べたことは、大きな意味があると感じた。この学びを生かし、「生徒に身に付けさせたい力」をどのように育ててあげればいいのか、さらなる考察を進めていきたい。また、他者との関わりの中で、考えの意図やその人の行動の意味などに着目して、身に付けるべき力や能力について深めていきたいと考える。

今までは、「生徒の視点」でしかグループワークを行ったことがなかったが、今回「もし教員なら？」を考えながら取り組んでみて、「自分が育てる側」にいることの自覚を持つことができた。大学の授業でもグループワークが多いため、これからは教育をする側の視点をもって取り組もうと考えた。また、グループの中に社会人の方がいて、意見の幅がとて広がった。様々な校種、教科、年代の人が集まるこの機会を大切に、いろいろな意見やテクニックを吸収したいと考えた。

《チャレンジコース小学校》

今日は、「子どもに身に付けさせたい力」について考えた。子どもたちに「生きる力」を育むためには「知・徳・体」の三つをバランスよく育むことが大切であることを知った。「確かな学力」はもちろんのこと、協働して生きていくためには「豊かな心」も必要であり、また「健やかな体」がなければ、よりよく生きていくことはできないと考える。グループ活動でも「子どもに身に付けさせたい力」について協議し、様々な意見が出た。子どもたちに多くの力を身に付けてもらうためには、まず教員自身がそれらの力を身に付けていなければならない。これからの様々な学びや活動を通して、「子どもに身に付けさせたい力」を自らも身に付ける努力をしていきたい。

今回の講座をとおして、学校の教師として「身に付けなければならない力」や「大切にしたいこと」について、様々な視点から学ぶことができた。これから心がけていきたいこととしては、ティーチャーズカレッジの活動の中で、常に自分の目標を設定し、そのために何をすべきなのかについて考えていきたい。目標意識を常に持つことで、緊張感をもって取り組んでいきたい。そして、少しでも自身の理想の教師像に近づけるように励んでいく。今回の講座を受けて、「現代で求められている多様性の認め合いは、大人にも子どもにも求められることなのだ」と思った。そして、グループ活動も通して、そこでも人の考えは十人十色で様々な考え方があることに触れることができた。私は、これからまず「他者の考えや気持ちを認める、受け入れる」ということを心掛けていきたい。例え、どうしても肯定できなくても、そのような考え方があるのだと一つの捉えの意識を大切に、他者と関わられるようにしていきたい。楽しみにしています。

《チャレンジコース小学校》

講座を受けて、特に子どもなりの「頑張り」「我慢」を認めるという話が印象に残った。「教師が子どもを認めてあげて、子どもの自己肯定感を高めるきっかけになりましょう」という話はよく聞くが、その「認める」について深く具体的に考えることができたため、新鮮だった。また、グループ協議では、多面的に「子どもに身に付けさせたい力」を、教員としてどうアプローチしていくか、考えることができた。

本日の講義やグループでの活動を通して、今まで以上に具体的に「育てたい子どもの力」について考えることができた。それによって、自分が将来教師になった際、どのように対応すべきなのかを、一人ではなく仲間とともに考えることで自分の視野が広がったことを実感することができた。子どもが育つために、教師が「どうすべきなのか」を思考順序で考えることで、子どもに寄り添った教育ができるということを学ぶことができたので、これから心掛けていきたいと考えた。

「子どもたちに身に付けさせたい力」は理想がどんどん挙げられるが、大切なのはその力を付けるために、教員が何をするかだと思った。子どもの自己肯定感を向上させることは大切で、そのために教員が子どものプロセスを捉え認めることが必要だと講座の中であった。「こうなってほしいから、私たちにはこうすることが求められる」ということを考えてアクションを起こすことをしていくべきだと思った。今日だけでも色々な意見に触れることができたため、意見共有し、もっと自分の考えを深めていきたい。

《チャレンジコース特別支援学校》

「子どもに身に付けさせたい力」は、一人ひとり考えが違うこと、同じ班でも様々な意見が出て、目指す子ども像は同じでも、それを育成するまでのプロセスがたくさんあることを学びました。支援教育では、複数の担任でクラスを担当することが多いので、みんなで思いや考えを伝え合って、また支え合える関係を築くことが大切だと思いました。そして、そのことを心掛けていきたいです。

《チャレンジコース中学校英語又は高等学校英語》

今日の講座で、生徒の見るべき部分について多く学んだ。結果ではなく過程を見ること、一人ひとりのありのままの姿を見て認めることなど、テストの成績ではなく、学校生活を送る中で生徒をよく観察することが大切だと分かった。そして、学校での学びを通じて「どのような力を付けるべきか」を深く考えたが、この問いに「このような力を付けさせたい」とただ考えるのではなく、その力を身に付けさせるにはどのような教育をすべきなのかまで考えたい。

《チャレンジコース中学校国語又は高等学校国語》

今日の講座を通して、学校が全ての子どもたちにとって居心地の良い場となるように変革していかなければならないということを知りました。これから学校現場に出た際に「今の時代に合っていない」、「生徒たちのためになっていないものはないか」という視点に立って、自分の授業や学校について考えることを心がけていきたいです。また、「子どもたちに身に付けさせたい力」に関して、集団で生活を送る学校だからこそ身に付けられるような、他者との関わり合いの中で培われる力を特に大切にしていきたいと思いました。